



27年度以降は『慎重に判断』約束

自衛隊からの募集案内



小田 桐たかし

日本共産党市議会議員

いぬい市議は「法令上、自衛隊は名簿提出を求めることができても、自治体は断ることもできる。平和都市宣言(※)を守る立場で対応を」と追求。市長は「次(27)年度以降、さらに慎重に判断する」と答弁し、事実上、対応見直しが行われることが迫られている。たまりません。



『平和都市宣言』(昭和62年1月1日流山市)
私たちは、平和と繁栄を市民憲章にうたい、「豊かで活力ある文化都市」流山の実現をめざしている。
私たちの国は、世界でただひとつの被爆国として、広島・長崎のいたましさと被爆者の苦しみをすべての人びとに訴え、人類共通の願いである恒久平和を達成させなければならない。
私たちは、日本国憲法の平和精神にのっとり、武力による紛争をなくし非核三原則をまもり、すべての核兵器をすてることを訴え、世界平和確立のため、ここに平和都市を宣言する。

流山の若者が戦死させることは絶対にさせない

いぬい市議の質問に、市長は「千葉県を通じて防衛大臣からの依頼があり、H26年1月に2763人分を紙ベースで提出した」と認めました。

『氏名』『生年月日』『住所』『性別』
2763人分を提出した「認める

小田桐たかし市議が調査・告発した自衛隊への名簿提出(2763人分)。小田桐市議のチラシを見た市民から「初めて知った。信じられない」「親も知らないあいだに勝手に名簿提出?本当?(怒)」との声。9月議会、いぬい市議団長が取り上げましたので、結果をご報告します。